

岡山県内における流域単位での外来魚駆除の取り組み事例

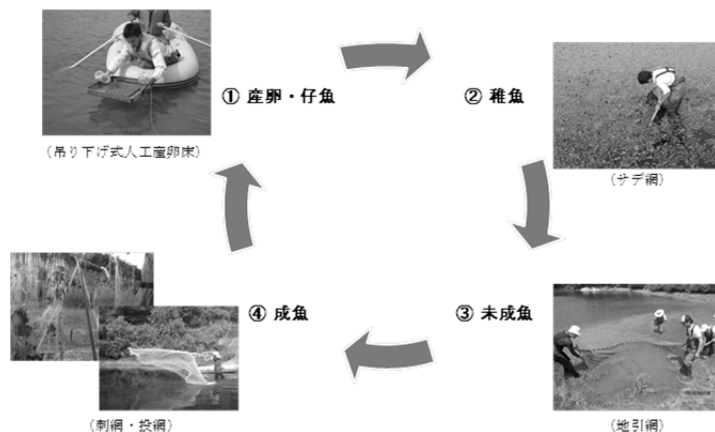
○笹田直樹・白神義章・河本智宏・芹澤英一郎（株式会社ウエスコ自然環境課）

【はじめに】 オオクチバス *Micropterus salmoides* とブルーギル *Lepomis macrochirus* の供給源や移動経路となっているため池や小河川を対象とした駆除事例を紹介する。対象はスイゲンゼニタナゴ※*Rhodeus atremius suigensis* やアユモドキ *Parabotia curta* が分布している流域単位とした。また、本報告は複数の業務報告書の抜粋であり、情報共有により作業の効率化が図られた事例である。実施主体は岡山県と環境省である。

【目的】 希少種をはじめとする在来魚の保全を図るため、外来魚を駆除することを目的とした。

【方法】 はじめに、岡山県が実施した緊急雇用対策事業の中で、対象とする流域におけるため池とその水路網および外来魚の分布状況を把握した。分布情報は、聞き取り、目視および釣り等の簡易な調査により収集した。外来魚の駆除には、投網、タモ網、サデ網、地引網、釣りなどに加え、電気ショッカー、吊下げ式の人工産卵装置などを使用した。吊下げ式の人工産卵装置については、産卵基盤として複数の素材を試行した。この県の業務で得られた外来魚の分布情報等を踏まえて、環境省の事業においてオオクチバスの標識放流による再捕獲や魚群探知機により、その移動や越冬状況の確認を試みた。また、各ため池の通年の運用状況を聞き取りにより把握し、維持管理等で水位を低下させる場合には、集中的に駆除が行えるように、地元との調整を行った上で、通年の駆除計画を作成した。

【成果】 岡山県の事業では、複数のため池において個体数の減少が確認され、数箇所のため池では外来魚を根絶できた可能性が高いことが示された。しかし、駆除の効果が確認できなかったため池も残存しており、根絶後に再びオオクチバス等が持ち込まれたため池も見られた。また、各調査結果を踏まえて、オオクチバス等の生活史に対応する駆除手法を整理した。環境省の事業では、河川内に設置した吊下げ式人工産卵装置でもオオクチバスの産卵が確認された。また、改修予定があるため池を対象として、水抜き後の外来魚の駆除が現在計画されている。地元と協力しながら、早急に今後の駆除方針策定する計画としている。



オオクチバスの生活史に対応した駆除のイメージ

【おわりに】 岡山県による外来魚の駆除事例とその結果の一部を活用した環境省によるオオクチバスの防除事例を紹介した。流域を単位とした駆除作業では、行政間での情報共有も重要であると考えられた。

※：スイゲンゼニタナゴの分類については諸説あるが、ここでは種の保存法（環境省）の分類に従った。